



『日中国交正常化 35 周年記念会議・パネルディスカッション』  
大河原理事長による議長総括

日本側代表の大河原良雄世界平和研究所理事長は、シンポジウムの最後に、以下のように議論の総括を行いました。

今回のシンポジウムは、つい先日温家宝首相が訪日し、日本の国会で極めて積極的、前向きなメッセージを発出された直後のタイミングで行われたという意味で大変大きな意義がありました。

2 日間のシンポジウムを終えるに当たり、日中関係の課題に関し日本の代表として感じた議論の全体的印象を述べたいと思います。

第 1 に、「相互理解」の重要性が強調されました。相互に理解するということは、互いの立場、国情、体制等の違いがあり、実は大変難しいわけですが、更に努力すべきということでありました。相互理解ができると、その上で相互尊重が、更に相互信頼という関係が生まれてくるわけで日中はぜひともそういう方向を目指したいということでした。

第 2 に、「対話の強化」が相互理解のために必要であるということが強調されました。今回、外交学会の代表の方々と対話を深めることができ貴重な一歩を踏み出したと考えます。

第 3 に、「共通利益」の分野を広げていくことが必要だということです。日中は深い関係をもっていますが、お互いの不利益や衝突ばかりをとりあげるのではなく、その解決も重要な要素であります。お互いに共通利益の範囲を少しでも広げる努力を積み上げることでお互いの理解が深まっていく、それが相互信頼につながっていくということだったと思います。

第 4 点は「戦略的互惠関係」です。昨年 10 月の安倍総理の中国訪問で、日中関係が「戦略的互惠関係」になるとの積極的な合意が発表されましたが、今回の温総理の訪日の結果、その関係を具体的に進める種々の方策、計画について具体的な合意ができたことは非常に素晴らしいことであります。今後は日中間の戦略的互惠関係を具体的に固める、「行動」に結び付けていく努力を続けていくべきとの議論でありました。

最後に重要な点として、平和的発展という問題について、日中双方から国交正常化後 35 年、戦後 60 年の間、両国が進めてきた道についてお互いの説明がありました。中国も我々も平和発展という道を目指して協力を進めていきたいということで、更に具体的な方策をまとめていきたいとの感想を持ちました。

以上のような感想をもちましたが、今回のシンポジウムがお互いを知り合い、そして率直に話し合える関係を築く上で大きな意味合いを持ったことをありがたく、そしてうれしく思っております。中国人民外交学会の代表の皆様をはじめ今回参加いただいた方々に心とりのお礼を申し上げます。